

第45回日本社会学会大会

昭和47年10月14・15日にわたって、標記の大会が法政大学において開催され、本研究所からも、テーマ部会の一つである地域部会の「人口急増と地域社会」の招待報告者である濱英彦技官をはじめ多数参加した。

大会の第1日は、A「日本社会学会と高田社会学」、B「社会変動と社会学」のシンポジウムが行なわれ、第2日は午前一般研究報告、午後テーマ部会が行なわれた。

一般研究報告では、都市の部において「人口Uターン（還流）論批判」の報告があったのをはじめ、家族の部で「主婦と就労の調査」や、老人問題、アジア社会と近代化の部での「死亡秩序の近代化とその社会的文化的要因」等の人口問題とかかわるいくつかの研究報告がなされた。なお残念なことに黒田俊夫技官の報告予定の「人口政策の展開——1970年代の課題」は同技官が欠席されたことによってなされなかった。午後のテーマ部会においては、上記のように濱技官が「人口急増と地域社会」を行なった地域部会において「人口急増の地域的パターン」の報告があったのをはじめ、「人口急増と地域社会の再編成」について東京圏の事例と阪神圏の事例報告がなされ、人口急増の実態とそこにおける問題点についての具体的な報告がなされ、活発な討論が行なわれた。

(柴田弘捷記)

第24回日本家政学会総会

第24回日本家政学会総会は、昭和47年9月30日および10月1日の両日にわたり、実践女子大学において開催された。

一般研究発表は7分科会に分かれ、合計315題の報告がなされた。本研究所からは、人口移動部主任研究官内野澄子技官が出席し、F. 家庭経営学・家政学原論の部門において、「消費生活の地域格差についての1つの分析」と題する報告を行なった。

なお、本年度のシンポジウムのテーマは「家政学と社会の要請」で、第1日目に専門分野別シンポジウム、第2日目に総合シンポジウムが開かれ、活発な討論が行なわれた。

(内野澄子記)

第14回日本老年社会科学会大会

標記の大会（大会会長・三重県立大学吉田正吉教授）は、昭和47年11月2、3の両日、三重県四日市市に在る暁学園短期大学（五嶋孝吉学長、大会名誉会長）において開催された。

今回の大会におけるシンポジウムとしては、「公害と老人」が取り上げられ、渡辺定学会長司会の下に、長岡滋（東京都公害研究所）、吉田克巳（三重県公害センター）および山崎心月（公害認定患者の会）3氏の報告とそれをめぐっての討論が行なわれた。また、特別講演として「扶養と扶養意識について」があり、杉村春三（慈愛園）、三浦文夫（社会保障研究所）の両氏が、課題について、臨床心理学面、および社会学的方面よりみた講演を、それぞれ行なった。なお、特別報告も「第9回国際老年学会概要報告」（渡辺定）と「第2回老年対策のための米国白亜館会議に出席して」（大間知千代）の2題があった。

このほか、予定されたプログラムによる一般演題として24題の報告があったが、そのうち「老年人口の地域分析」と題して報告する予定であった筆者（山口）は、都合で出席できず、誌上発表となった。

(山口喜一記)